

放課後デイサービス自己評価表

事業所名	りあん嘉麻教室 単位 1
評価日	令和3年3月1日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いい え	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			低学年と高学年で分かれて学習できる環境作りをしている。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			人員配置基準通り職員を配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			若干の段差等はあるが、トイレは広くスペースを取っている為、車椅子から便座への移乗はしやすい環境になっている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			朝礼、月1回のミーティングを行い、また、改善点があった場合は、その都度スタッフで話し合い、結果を必ず報告する様にしている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者の意向等を把握し、職員間で話し合い改善に繋げている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページに公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		外部の評価はできていないが意見を聞き改善に繋げている
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			毎月、障害特性にあった支援方法や接遇に対して等の勉強会を実施している。 外部研修については報告書の作成、資料を職員へ提示及び報告を行い情報共有している。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			初回時アセスメントの作成、1年に1回のアセスメントの見直しを行い、保護者の意向及び現段階での問題点・改善点を見直し、個別支援計画を立てる様に努めている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			児童用アセスメント評価シートを使用している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			月末には必ず次月の活動の内容を職員で話し合い、活動内容を立案している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫して	○			同じ課題内容であったも、学年によって難易度を付け、ワンパターンにならない様に工夫しながら

		いるか			努めている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		平日と休校日での活動内容に変化を付け、平日の活動では出来ない工作・製作活動などを休校日に取り入れて支援を行う工夫をしている。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		子どもの状況に合わせて個別活動に必要な課題と集団での必要な課題を上げて個別支援計画を作成する様に努めている。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		朝礼を行い、必ずその日の活動内容の確認と打ち合わせを行い、職員がスムーズに現場で動いている様に努めている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		送迎終了後、必ず申し送りを行い、問題行動等があった場合は、それについての反省や意見等を出し合い、次に活かしていける様に努めている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		利用時、欠席等の記録は、必ず入力し職員間で情報共有を行っている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		モニタリング月、見直し月、更新月と職員でケース会議を実施し、モニタリング及び個別支援計画を作成している。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○		ガイドライン策定以前から、基本活動内容障害児学童あるべき姿として捉えており、活動や保育に組み込む工夫をしている。
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		児童発達支援管理責任者若しくは管理者が担当者会議に参加をしているが、事前に職員で会議で情報共有をする内容を再確認する様に努めている。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		学校と情報共有に関して、送迎の際に当日の様子や保護者への伝達事項等、連絡および情報交換をしている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○	現在、医療的ケアをする児童の利用があっていない。 今後、医療的ケアの必要な児童の利用があった際は、関係機関及び主治医と連携を取っていく体制を作っていく。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		他の児童発達支援事業所から放課後デイに移行の際は情報を提供していただき、法人内の児童発達支援事業所であれば就学前会議を行い情報の共有に努めている。

	②4	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		現段階では、学校を卒業して障害福祉サービスに移行したケースがない。 障害福祉サービスに移行するケースがあれば当然情報を提供する。
	②5	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		必要に応じて児童発達支援センターの専門職員に助言をしていただいている。
	②6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	地域の活動に於いては、月に1度、清掃活動を行い奉仕活動を行っている。
	②7	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		地域自立支援協議会の定例会議があれば参加している。
	②8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		連絡帳や送迎の際に、こちら側が気になることは尋ねるようしている。成長や頑張ったことはその都度保護者に伝えている。
	②9	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		事業所での支援方法や成功した支援方法などを伝え、家庭と事業所で出来る限り同じ対応方法が出来る様な環境作り、連携を図れる様に努めている。
保護者への説明責任等	③0	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		重要事項説明書を使用し説明同意を頂いている。 変更が生じればその都度説明をしている。
	③1	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		悩みや困ったことを、解決できるような支援につなげられるよう、関係機関と連携を取りながらサポート出来る様に努めている。
	③2	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		保護者会、保護者向け勉強会を行っている。
	③3	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		苦情受付窓口担当者・苦情解決担当者・第三者委員会設置苦情や相談に真摯に対応し迅速な解決に努めるようにしている。
	③4	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		月に1度ブログを更新し、また、行事などの様子を行事終了後に保護者にLINEで伝えている。
	③5	個人情報に十分注意しているか	○		同意を頂いていない児童の写真の取り扱いには十分に気を付け配慮している。
	③6	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や	○		皆さんに理解していただけるように、分かりやすい文書且つ簡潔にまとめ情報伝達出来る様に努

		情報伝達のための配慮をしているか				めている。。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		今年度は、コロナウィルス感染拡大防止の為、地域住民を招待する行事等を実施せず控えている。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員は研修を行い周知している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			年に2回避難訓練と地震を想定した訓練を実施している。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止に向けての取り組みの研修会を定期的に行っている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			危険回避行動と虐待と違いを明確にし、適切な対応をするようにし支援計画へ明記を検討している。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			アセスメントの際に食物アレルギーの確認を行い食事内容に十分注意している。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハット、事故トラブルなど、状況を記録し、検証する体制を整えており、再発防止に向けて取り組めるようにしている。